



Vol. 33 No. 4  
2017. MAY



秋田県作業療法士会 印刷 川嶋印刷株式会社

発行 一般社団法人 秋田県作業療法士会 ホームページ <http://akita-ot.jpn.org/>  
会長 高橋 敏弘  
編集 一般社団法人 秋田県作業療法士会広報部  
〒018-5421 秋田県鹿角市十和田大湯字湯ノ岱 16-2  
大湯リハビリ温泉病院 作業療法室・児玉 達則  
TEL 0186-37-3511 FAX 0186-37-3483  
E-mail a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp  
事務局 〒010-0041 秋田県秋田市広面字屋敷田 25-2 セジュールエスト 105 号  
TEL/FAX 018-837-0552  
E-mail akita\_ot@akita-ot.jpn.org

## 「縁起」～すべては繋がっていて相互に影響しあっている～

社会医療法人明和会 中通リハビリテーション病院 湊 洋太

「新しく理事になった方に」とのことで年が明けて間もなく、広報部の菊地さんから原稿依頼の連絡がありました。私は文章を書くのは苦手なのですが、最近思っていることなどについて書いてみます。

私が秋田県作業療法士会の理事になったのは平成 26 年 4 月なので、間もなく 3 年が経とうとしています。会長の高橋敏弘先生をはじめ理事の皆様は大先輩ばかりで、ご指導いただきながら日々の事務局業務を行っています。事務局業務以外には、生活行為向上マネジメント（以下 MTDLP）の研修会運営や事例審査に関わったりもしています。職場では平成 27 年 12 月に開設した通所リハビリの業務を行っています。さらに、現在はケアマネージャーの試験に合格したため実務研修の真っ只中です。

事務局業務では、県士会の会議や研修会に関する連絡調整、OT 協会や他の都道府県士会、PT 士会・ST 士会の事務局との連絡、行政との連絡、会員の皆さんからの問い合わせや届け出に対する対応などを行っています。MTDLP については県士会での講習会の講師を担当したり、OT 協会の合同事例審査の場で全国から集まった事例審査員の皆さんとそれぞれの事例審査を通して意見を交わしています。職場では通所リハビリの OT として職場のスタッフをはじめ、利用者さんとそのご家族、担当ケアマネージャー、ヘルパー、看護師、福祉用具業者など様々な方と連絡を取りながら、利用者さんの支援を行っています。ケアマネージャーの実務研修では、介護福祉士、サービス提供責任者、生活相談員など様々な職種・立場の方と共に学んでおり、自分にはなかった視点に触れることが多くあります。

毎日たくさんの方と関わって多くのことを学ばせてもらいながら、充実した日々を送っています。そんな風に過ごす中で、自分はたくさんの人との繋がりの中で、嬉しくなったり、楽しくなったり、悩んだり、落ち込んだりしながら、常に変化し続けているなあと感じます。いま、この瞬間もです。ちなみに今日は原稿締切日の 2 月 20 日で、かなり焦りながらパソコンに向かっていきます。追い詰められています。

さて、「縁起」という言葉があります。現在は日常用語として「縁起が悪い」「縁起をかつぐ」などと用いられています。しかし、本来の仏教用語である縁起とは「他との関係が縁となって生起すること。自己や仏を含む一切の存在は縁起によって成立しており、したがってそれ自身の本性、本質または実体といったものは存在せず、空（くう）である。」という意味です。すべての現象的存在は相互に影響

響しあって生じており、恒久的な実体的存在は一つとして在り得ず、すべては移り変わるということです。この考え方は相互作用モデルである ICF（国際生活機能分類）にも通ずるように思います。また、「ゆく川の流れば絶えずしてしかも、もとの水にあらず」という「方丈記」の冒頭の有名な一節があります。これは、一見、川の水の流れは変わらず、絶えることなく続いているように見えるが、それは決して同じ水ではなく、常に移り変わっているということです。

日々過ごしていると、些細なことで腹を立てたり、不満を感じたり、悩んだり、不安になったり、執着したり（仏教では執着は迷いの根本とされています）することが多くあります。しかし、上記のように人や物を含む、この宇宙のすべてが常に移り行く存在であり、相互に影響しあっていると考えると、自分自身がどれだけ小さな存在であり、様々な人や社会や自然との関係の中で生かしてもらっているということを実感します。そんな風に考えると「なんでそんなちっぽけなことに腹を立てていたんだろう」と思い、人にも少し優しくなれるような気がします。腹を立てた自分も、腹を立てた対象も、そしてこの宇宙のすべてが次の瞬間にはもうその状態にはないのですから。

現在、地域包括ケアシステムの構築に資する人材として、リハビリテーション専門職（理学療法士、言語聴覚士、作業療法士）の活躍が期待されています。私自身も一人の人間として、作業療法士として、様々な人たちに支えられ、生かされていることを心に留めてたくさんの人と手を取り合いながら頑張っていきたいと思っています。これからもよろしく願いいたします。

## 印象記 「子どものその行動、なぜ？を考える」

### ～平成 28 年度 現職者選択研修 発達障害領域に参加して～

秋田県立医療療育センター 野田 香菜子

平成 28 年 10 月 23 日、秋田大学医学部保健学科において、発達障害領域の現職者研修が開催されました。その中で、大阪市更生療育センターの嶋谷和之先生よりお話いただいた、「発達障害領域の基礎知識と作業療法の課題と展望」「自閉症スペクトラム障害児に対する作業療法の実際」というテーマの講義について報告いたします。

嶋谷先生は関西の方らしいユーモア溢れる先生で、考え方やアプローチの仕方もとても幅が広いと感じました。子ども達の気になる行動について、たくさんの事例を交えてお話いただき、とても具体的に理解しやすかったです。

自閉症スペクトラム障害の行動上の特徴には、感覚の域値の問題が強く関わっていると言われますが、脳のどこに問題があるのかはまだわかっていません。大脳皮質もしくは皮質下の特異性なのではと考えられています。子どもは人や環境との相互作用の中で発達しますが、自閉症スペクトラム障害の子どもは、人のような柔軟で曖昧さのあるものに対応することが苦手です。また、自己の身体を動かし、身体を通して物を操作し、その先にある人に対して言葉を使うという連続した過程を経験する難しさがあります。子どもの反応は、子どもなりに環境を捉え、情報を処理した結果です。その結果が状況にそぐわないものであった時、子どもがどう捉え、どう処理したのか。「なぜ？」を考えることで支援の視点が見えてくるとお話いただきました。

スーパーで走り回り、次々と商品に手を出す自閉症スペクトラム障害の子ども事例紹介がありました。「走っちゃダメ」「なんで出すの」「買わないよ」と叱るお母さん。「なぜ？」を考えた時、子

どもはお母さんに追いかけてもらうのを喜んでいたり、見渡す限りに並んでいる商品にワクワクして、気になったものをあれこれと見せたいだけだったかもしれない。そんな子どもに対し、荷物を一緒に持ってもらう。手を繋ぎ、子どもの手が届かないようにお母さんが陳列棚側を歩くようにする。「〇〇あったね」と見せたい欲求を認める言葉をかけるなど、環境や対応を変えることで、子どもの反応が変わるという話は、とても身近な事に感じました。

平成28年4月より障害者差別解消法が施行され、障害者の差別的取り扱いを禁止し、合理的配慮を提供することや、差別を解消するための支援措置が法律に織り込まれました。

また、同年8月より発達障害者支援法が一部改正され、日常生活や社会生活において、一人一人の個性を重視し、①ライフステージを通じ、②きめ細やかな支援を、③地域の身近な場所で受けられるようにしていく提言がなされました。発達障害に関わる領域でも、保健・福祉・教育・労働など様々な分野にOTが参画し、地域の療育力・支援力を高めることが望まれています。

皆さんの普段の社会生活や育児の中でも、自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動障害、学習障害などの障害をもつ成人の方や子ども達と接する機会があるかと思います。「なんだか人間関係が下手で不器用」な彼らをどう理解し関わるのか。また、成人期の就労や社会生活での困り事に対してどうサポートするのか。発達障害領域以外の方々にも関心を持っていただけたらと思います。

最後になりますが、貴重な講義をしてくださった嶋谷先生、研修会を開催してくださった教育部の皆様、印象記の執筆という機会をくださった広報部の皆様に心より御礼申し上げます。拙い文章を最後までお読みいただきありがとうございました。

## 印象記「今世紀最大の危機」

中通リハビリテーション病院 米谷 和真

私事ですが、入社してから6年間、優しい先輩や癖のある先輩方に大変によくしてもらいながら回復期病棟で勤務して参りました。その間にとてつもなくかわいい娘も生まれ、今は空前絶後のアンパンマンブームです。少し前までは「アンパン」としか言えなかったのに、今ははっきりと「アンパンマン」と、そして「ドキンちゃん」とも言えるようになりました。そして、なぜかバイキンマンのことは「バイバイキン」と呼ぶようになりました。字数制限があるので本題に戻りますが、回復期で長く勤務してきた中、ついに昨年の3月に同院内ではありますが療養期と外来を担当する病棟へ初の異動となりました。それに伴い、一番縁が遠いと思っていた小児外来を担当させてもらうこととなりました。これは今世紀最大の危機です。小児のリハビリ場面は日常的に目にする環境にはいたのですが、自分がやるとなると何をどうしたらいいのか…。実家に置き去りにしてきた小児の教科書を急いで取りに行き目を通して見たものの…ムム…。そんな中での実践スタート。先輩方に相談しながらも当然あたふたあたふた。藁にでもすがりたいそんな日々の中で、ありがとうございます！秋田県作業療法士会御中！2016年度の現職者選択研修が幸運なことに発達障害領域。これはもう藁どころではないです。申し込み要項に「当日は生涯教育手帳を必ずご持参の上受付に提出してください」の注がある中、手帳を紛失している私でも躊躇なく申し込みしました。

研修日は2016年10月23日、講師には秋田県立医療療育センターの渡辺誠先生と大阪市更生療育センターの嶋谷和之先生がお越しくださいました。講義では制度的な内容に加え、渡辺先生からは脳性まひの定義、基本知識、重症度と成長に応じた基本的なアプローチ方針、運動の特徴など基礎を網羅

してくれる内容を、嶋谷先生からは子供の発達をひとと環境との関わりから捉えるという視点と中枢神経系の情報処理過程から捉えるという視点、そして自閉症スペクトラム障害児への介入についてお話いただきました。両方の先生の講義の中で一番ありがたかったのは動画を用いた実際の臨床場面の提示で、動作分析や解釈の仕方、そこから抽出された介入ポイントとその実践場面を解説付きで提示していただいたことです。五里霧中の状態の私にとってこんなありがたいことはないです。原始反射や姿勢緊張、課題の選択、お母さんが常に見ている等、成人を対象としたリハビリと違いは多々あるのですが、ちょっと身構えすぎていました。しっかり動作分析をして、解釈をして、介入方針を立てるところはもちろん一緒です。当たり前のことだったのですが、今世紀最大の危機に陥っていた私は盲目です。講師の先生方のお話で少し目が覚めました。しかし、目が覚めても難しいものは難しく、そして興味を持ってくれる遊びの中に治療要素を入れるのもまたすごく難しく、依然として大変に四苦八苦はしておりますが…。

この原稿は研修会の約4か月後に依頼があり書いていますが、それにあたり頭に先に浮かんだのが、渡辺先生のお話の中で出てきた、「今、子どもたちからおそわっていること」という内容です。岸良至先生からの引用だそうです。このなかの「ありのままを受け入れてみよう」「子どもの行動すべてを肯定してみよう」という内容がありました。この言葉は自分のガチガチに凝り固まった頭を柔らかくしてくれました。嶋谷先生の方からも反応に目を凝らすことや遊びをどれだけ広げていけるかに目を向けるというお話がありました。自分のスキルの問題が大きいと思いますが、小児のリハビリで提供した課題において意図しない反応は日常茶飯事です。そんな時、うまくいかないなあといつもあたふたあたふたしていました。しかし、先の二つの言葉が効きました。意図しない結果は悪い結果ではなく、そこに良い反応や遊びの広がりがあったりするのです。このような見方を少しできるようになり、リハビリ場面で自分の心に数ミリですが余裕が出来ました。

今回の研修会に参加し、パニック状態にいたところから深呼吸ができました。日々至らない点ばかりで申し訳ない気持ちでいっぱいにはなりますが、なんとかスタートを切れたかなと思います。今回の研修会をきっかけに、対象児とその家族により良いものを提供していけるよう一層精進して参りたいと思います。講師の先生方、貴重な講義ありがとうございました。

## 『ひらめき教室 「弱者」のための仕事論』

書評

【著者】松井優征・佐藤オオキ 【出版】集英社新書

【価格】税抜740円 【ページ数】221頁

社会医療法人明和会 中通訪問看護ステーション 原田 大河

この本はNHKの「SWITCH インタビュー 達人達」という番組の「松井優征×佐藤オオキ」を書籍化したものです。テレビでは編集された部分と後日談を追加し、さらに内容の濃いものとなっています。

松井優征氏は、人気漫画「暗殺教室」の作者で、「暗殺教室」は私が週刊少年ジャンプで毎週楽しみにしていた作品の一つです。「暗殺」という言葉のせいでよくない第一印象を与えてしまうこの作品は、「エンドのE組」と呼ばれる落ちこぼれの生徒たちが、殺せない先生「殺せんせー」と暗殺を

通じて成長していくという、「GTO」をも凌ぐ熱血学園ドラマなのです。暗殺とは弱者が強者を倒すための戦略の一つであり、暗殺のノウハウを得ることで、社会に通用する人間を育てようという話です。私は、前作の「魔人探偵脳噛ネウロ」も含め、松井氏の思考に非常に興味があったためこの番組にかじりつきました。

佐藤オオキ氏はデザイナーでデザインオフィス「nendo」の代表です。彼のことは知りませんでしたが、私のデザイナーという職種に対する偏見を粉々に砕くような、地味で物腰の柔らかい人物でした。これだけでも十分に好感が持てたのですが、佐藤氏のデザインした商品は、使い勝手と高いデザイン性が同居しているものが多いのです。この佐藤氏の人柄と作品に触れたことで、私は興味のなかったデザイン業界を好意的に捉えることができるようになりました。

さて、ようやく本題に入れそうですが、私にはこの本を通じて語りたいたいことがありすぎてページが足りません。ここではこの本の帯にもなっている「自分の弱点を認めた人は強い」という私が最も共感した部分を語ります。

この2名はそれぞれの分野で大きな成功を収めているにもかかわらず、自分を「弱者」と表現しています。漫画家なのに画力の低い松井氏、デザイナーなのに特にやりたいことがない佐藤氏は、それぞれ自分の弱点と向き合ったことで結果を出しているのです。弱点認めるという行為は、多大なストレスを伴います。私は25歳まで自分の弱点と向き合ったことがなかったため、当時死にそうになりながら時間をかけて受け入れたことを今でも忘れることができません。周囲の支えがなければとても耐えられませんでした。

私たち作業療法の対象者は、何らかの形で弱点ができてしまった方です。その弱点と向き合い、生活を取り戻すことは簡単なことではありません。しかし、私たち作業療法士が寄り添い、一緒に弱点を認め、克服していく手伝いができたなら、その方の人生はきっと輝くことでしょう。そして今、私たちの生活する「地域」が困っています。私たち作業療法士が、地域に眠る弱点を発掘し、解決策を出していくことで地域は今よりもっと元気になります。皆さんも、この「ひらめき教室」を読んで、松井・佐藤両氏の考え方に触れ、地域包括ケアシステムを盛り上げていけたら楽しいですね。もちろん個人的にこの本の内容で盛り上がることも楽しみにしております。

## シリーズ「作業療法と生活考」NO. 65

# 「動作の要素としての時間・空間・力」

秋田大学医学部保健学科 金城 正治

前回動作分析の話をしました。今回は動きを「時間・空間・力」の3要素で捉えていきましょう。我々が動く時には時間の流れがあります。そして、空間の中で動いています。また、動くためには何らかの力が必要です。この動きの力で筋は大きな役割を果たします。この3要素からみると、もっと動作が物理的な動きでなく、活動としての動きで分かってきます。

最近、筋力や体力が落ちていることを実感します。ハイキングやウォーキングでも前よりも時間がかかり、休む回数も増えました。筋力や呼吸循環機能力が落ちているのを時間でカバーしていることになります。これは加齢や老化としての成長です。この低下を実感していけない人は、自分の体をこ

わすこととなります。動きをよく知ることも知恵です。

我々は誕生してからこの3要素をうまく使って成長していきます。赤ちゃんは力が足りない分を時間と空間でカバーしていきます。そして、成長するに従って筋力が強くなってきますので、時間と空間を小さくして、力で効率的に動いていくことができます。例えば仰臥位から坐位になるまで、多くの成人が腹筋を使った直線的な起き上がりになります。しかし、赤ちゃんは腹筋を使って起き上がることはできません。短い手足や首、体幹を使って寝返りをして座っていきます。成人の寝返りよりもより頸や体幹脊柱の使い方が観察分析できます。

高齢者も腹筋を使って起き上がるのは次第に困難となってきます。やはり側臥位までの寝返りをしてから座っていきます。時々片麻痺の方でも、頸部の屈曲や腹筋などの体幹屈筋を使って起き上がるようにすることが観察されます。この動作ではかなり緊張が高くなり、結果として起き上がれない方も多いです。また、側臥位までの寝返りをしてからの方法でも、寝返りの仕方が中途半端になり、緊張を高めている方がいます。柵を強く手でつかみ引っ張り込んで寝返りをする方もいますが、やはり自分の緊張を高めることになり、本来の寝返りのパターンではありません。しっかりと骨に重さをのせながら動作することも大事です。

次に椅子からの立ち上がりを10代の方と80代の方をイメージしてやってみてください。10代の方と80代の方では、時間や空間、力が違ってきます。80代の方の立ち上がりでは、「よっころしょ」と言ったかもしれません。両膝に手をついたかもしれません。そしてゆっくりとなったと思います。これも空間、時間の要素が広がったことを示しています。我々は、この要素を理解して対応しているかどうかは、とても大事なことです。子供に「急ぎなさい」と声かけしていませんか？ 臨床で自分のペースで介助していませんか。相手の動きを感じていますか？ 相手の動きを邪魔していませんか？ 相手の動きを知り対応できるのがセラピストです。自分が主体になった動きは、相手に緊張させることが多いです。緊張した動きは、本来の動きから遠くなります。動きの学習につながりません。社交ダンスのように介助できるといいですね。

更に、この時間・空間・力を自分自身（内側とみてもよい）と外側で分けると、もう少し明確になってきます。時間での内側は自分の時間ですが、外側は時計や介助する人などの外の時間になります。空間で内側は自分の体の柔軟性、関節の余裕や緊張の度合いなどがあります。外側は自分の周りの空間です。力での内側は自分の筋力で発揮する力ですが、外側は重力や外力となります。この内側と外側の要素も使って更に動作していくと、自分の動きや介助、ハンドリングがよくなってきます。これら一つ一つの詳しいことは、別の機会に書きたいと思います。

## 職場紹介

医療法人寿光会 介護老人保健施設 鹿角微笑苑 黒沢 拓郎

皆さんこんにちは。新年が明けてから、早いものでもう2カ月が経ちました。鹿角の冬は例年に比べ、雪は少ない方ですが、日中と夜の温度差が激しく、まだまだ寒い季節です。インフルエンザやノロウイルス等感染症対策には十分注意しなければならない時期ですね。

さて、2017 年最初の職場紹介という事ですが、秋田県鹿角市十和田にある介護老人保健施設鹿角微笑苑を紹介します。

鹿角微笑苑は辺り一面田んぼの中に佇む、施設も送迎車も職員ジャージも全て黄色が目印の施設です。平成7年5月に設立し、今年で22年目を迎えました。施設名にある「微笑(みしょう)」とは、「拈華微笑(ねんげみしょう)」という仏教語を由来としています。言葉を必要としなくても心と心を通わせる事ができる、そんな関係を利用者様、職員共に築いていきたいという思いが込められています。そんな笑顔溢れる微笑苑のリハビリ課について簡単に紹介します。



中庭で一生懸命雪を固めながら作りました。ライトアップされた夜のかまくらもまた綺麗ですね！

### ◎ リハビリ職員数

入所定員 100名 (短期利用可/空床利用) : 作業療法士2名(うち1名兼務)  
理学療法士1名(常勤)  
通所リハビリ定員 20名 (介護予防通所リハビリを含む) : 作業療法士1名  
理学療法士1名(常勤)

### ◎ 入所リハビリの特色

苑内は障子や畳等の和をテイストとした造りが特徴の施設です。子供室(職員用)も設備されている為、子供から大人、お年寄りの方、皆が和やかに交流されており、日々、利用者様個々にあった運動や作業、集団活動を行っています。その他にも、毎月の誕生会や地域の皆様一体となって行われる開苑祭、秋祭り敬老会等、楽しい行事がたくさんありますので、是非一度、鹿角微笑苑まで足を運んでみて下さい。



皆でお茶会。お菓子で口の中を甘くしてから頂くお茶は格別ですよ！

### ◎ 通所リハビリの特色

日常生活や生きがいに焦点を合わせ、ご利用者様自身の中から「元気になりたい」という気持ちが湧き出てくる様な対応を心掛けています。ご家族との情報共有やご自宅を訪問しての生活動作の指導もさせて頂いています。アンケートでは65%の方から利用してから生活が楽になったと実感頂く結果が出ています。より身近な存在でいられる様に力を尽くしています。週3回以上のリハビリを実施している方もいらっしゃいます。病院を退院し、リハビリを継続したい方が増えています。

以上、リハビリスタッフ5名で日々誠心誠意業務を行っています。



獅子舞に頭を噛んでもらい縁起が良いですね。より良い1年になりますように！

また、施設行事にも力を入れており、特に開苑祭、秋祭り敬老会は1年の目玉となる大きなイベントです。最近では新年会や節分等、利用者様、職員、地域の方々が一丸となって、笑顔が絶えない素敵な行事となりました。

微笑苑の名のごとく、これからも利用者様の笑顔で溢れる施設づくりを目指し、拮華微笑の精神、笑顔でより良いサービスを提供していきます。興味のある方、見学したい方は是非一度鹿角微笑苑までお越し下さい。



微笑苑2大行事の開苑祭・秋祭り敬老会。歌に踊りに美味しい物まで、皆で大いに盛り上がりました！

---

## 編集後記

歳を重ねるごとに時間の流れは早いもので、あっという間に年度末となりました。冬の寒さも和らいでくる時期ですね。春が来るのが待ち遠しいです。

春といえば…ベタですが、出会いと別れの季節です。異動や転職などで環境が変わったり、新しく物事が始まったりと、忙しさを感じる季節でもありますね。ですが、新品のノートに文字を書くときのような…少し緊張感もありながら、新しい気持ちで過ごせるあの感覚がとても好きです。

皆さんの来年度の目標はありますか？わたしは、本をたくさん読もうと思っています！

参考書、小説、名言集などとにかく何でも読んで、心を豊かに出来たらなと思っています。本を読む時間を作る余裕を持てるようになるのも、わたしにとっての課題ですね（笑）



編集担当 (ma-sa)

## 広報部から

### ・会員異動の際は、お早めにお知らせください！

県士会ニュース「きりたんぼ」では会員の異動情報(新規入会・退会含む)を取り扱っております。正確な情報をお届けできるように、広報部一同、これからも頑張っていきますので、異動の際は、お早めにお知らせください。連絡先は事務局メールアドレス [akita\\_ot@akita-ot.jp](mailto:akita_ot@akita-ot.jp) です。ご協力よろしくお願い致します。

### ・研修会情報をお知らせしております。

余白を有効活用して、県内で開催される講習会・研修会情報を公開しております。院内での小さな勉強会でも構いません。「他の病院から参加者を募り、実りある研修にしたい」「情報交換をしてお互いの技術や知識を高めたい」その想いが秋田の作業療法を発展させます。みんなで秋田を盛り上げていきましょう。情報お待ちしております。宛先はこちら [a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp](mailto:a-ot-kouhou@par.odn.ne.jp)

## ☀ 学会案内 ☀

### 第26回秋田県作業療法学会

場所：秋田テルサ 日時：H29年4月22日(土)

特別講演：【テーマ】地域における認知症高齢者への作業療法の取り組み(仮題)

【講師】広島都市学園大学 健康科学部 リハビリテーション学科  
作業療法学専攻 谷川 良博先生

詳しくはこちらから ☎ HP: <http://akita-ot.jp/>

## 求人広告

### 作業療法士(精神科) 臨時職員募集

施設概要：総合病院 平成22年開設  
精神科病床 60床  
精神科デイケア(大規模：定員50名)

待遇：秋田県厚生連規定による  
時間給 162,863円～269,670円/月  
8:30～17:00

休日：土日祝日、年末年始休暇他

他：通勤手当あり  
賞与は、勤続1年以上で支給  
来年度の正社員への登用あり

応募方法：下記まで電話連絡後、履歴書を郵送又は  
ご持参ください

JA 秋田厚生連 能代厚生医療センター  
〒016-0014 秋田県能代市落合字上前田地内  
TEL:0185-52-3111 FAX:0185-55-0123  
担当) 総務管理課 藤野真樹

### \*県士会の皆様へのお願い\*

年会費の振り込みがまだの方がいらっ  
しゃいます。  
振込用紙を紛失された場合は、事務局へ  
ご相談のうえ、早急に振り込みをお願い  
いたします。

一年間ありがとうございました！  
来年度もきりたんぼを  
よろしくお願いします。



リハビリテーション機器・生体現象測定装置等販売

高度管理医療機器販売事業 04-000026 号 **有限会社バイオテック**

代表取締役 **飯塚清美**

〒010-0041 秋田市広面字碓 80-1 TEL018-837-0161 FAX018-837-0162

(一社)日本義肢協会登録  
東北 101 号



株式会社

千秋義肢製作所

~~~~~  
義手・義足・装具・車椅子  
リハビリ用品  
~~~~~

秋田市新屋豊町 1-22

TEL 018-823-3380

FAX 018-862-5126

<http://www.sensyu-gishi.co.jp>

立位移動補助具 アクティモ NR **SAKAImed**

**actimoNR**

早期活動を促す

新しいリハビリテーション

脳卒中発症後早期の方でも、下肢・体幹を支持保持して安全に立位姿勢を保てる設計で、早期からの立位・移動リハビリテーションに最適です。



お問い合わせ先

酒井医療株式会社

[www.sakaimed.co.jp](http://www.sakaimed.co.jp)

東北支店 盛岡営業所  
(青森・秋田・岩手エリア担当)  
TEL: 019-656-5336

東北支店 仙台営業所  
(宮城・山形エリア担当)  
TEL: 022-390-6840

仙台営業所 郡山オフィス  
(福島エリア担当)  
TEL: 024-927-0231